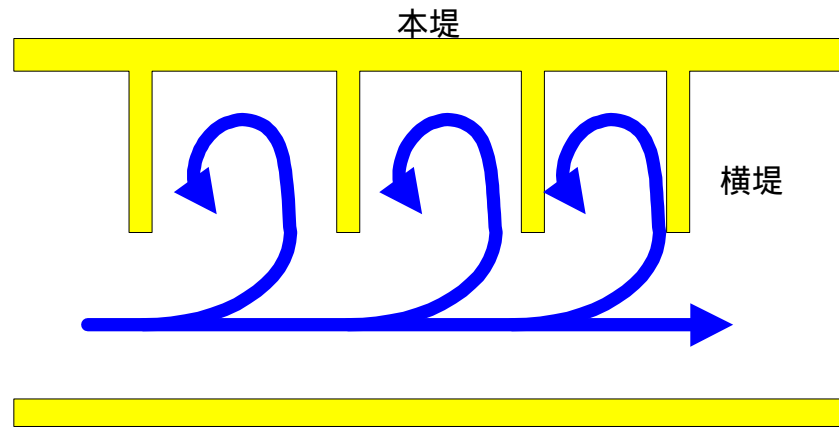
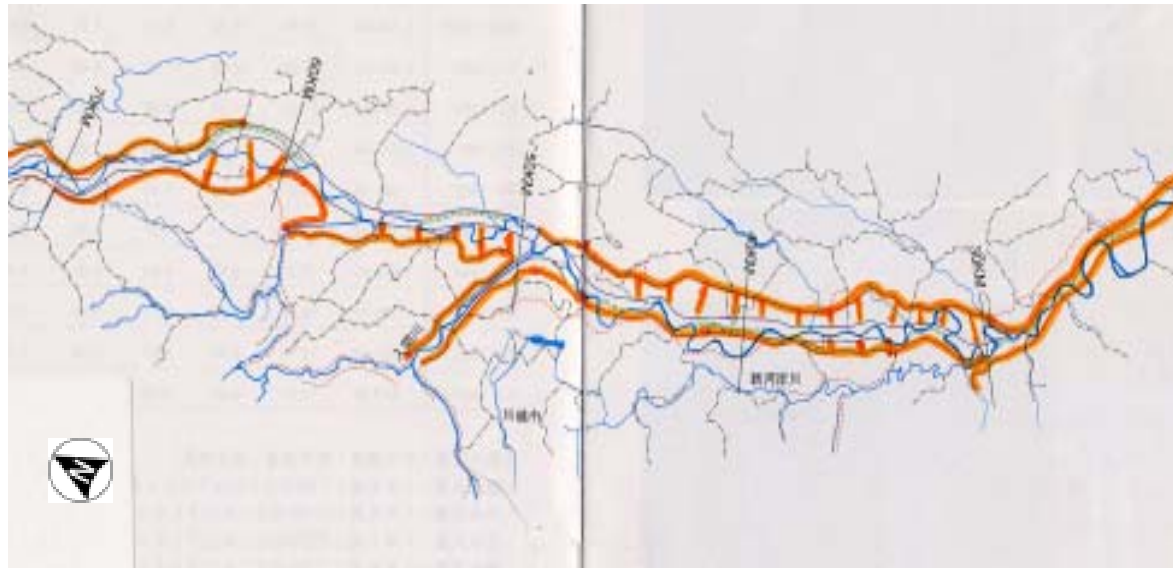


< 横堤 >

川幅が広く、高水敷に耕地がある場合、この部分を遊水地として利用し、かつこれらの耕地の洪水被害を軽減する目的で、本堤から流心側へ直角に築造された堤防です。荒川では、吉見町糠田橋付近から戸田市笹目橋付近の間の川幅を広くとり(最大で 2.5Km)、26 本の横堤を設けることで遊水効果を高め、下流へ流れる洪水を調節します。現在では、この遊水効果をさらに高める人工調節池が造られています。

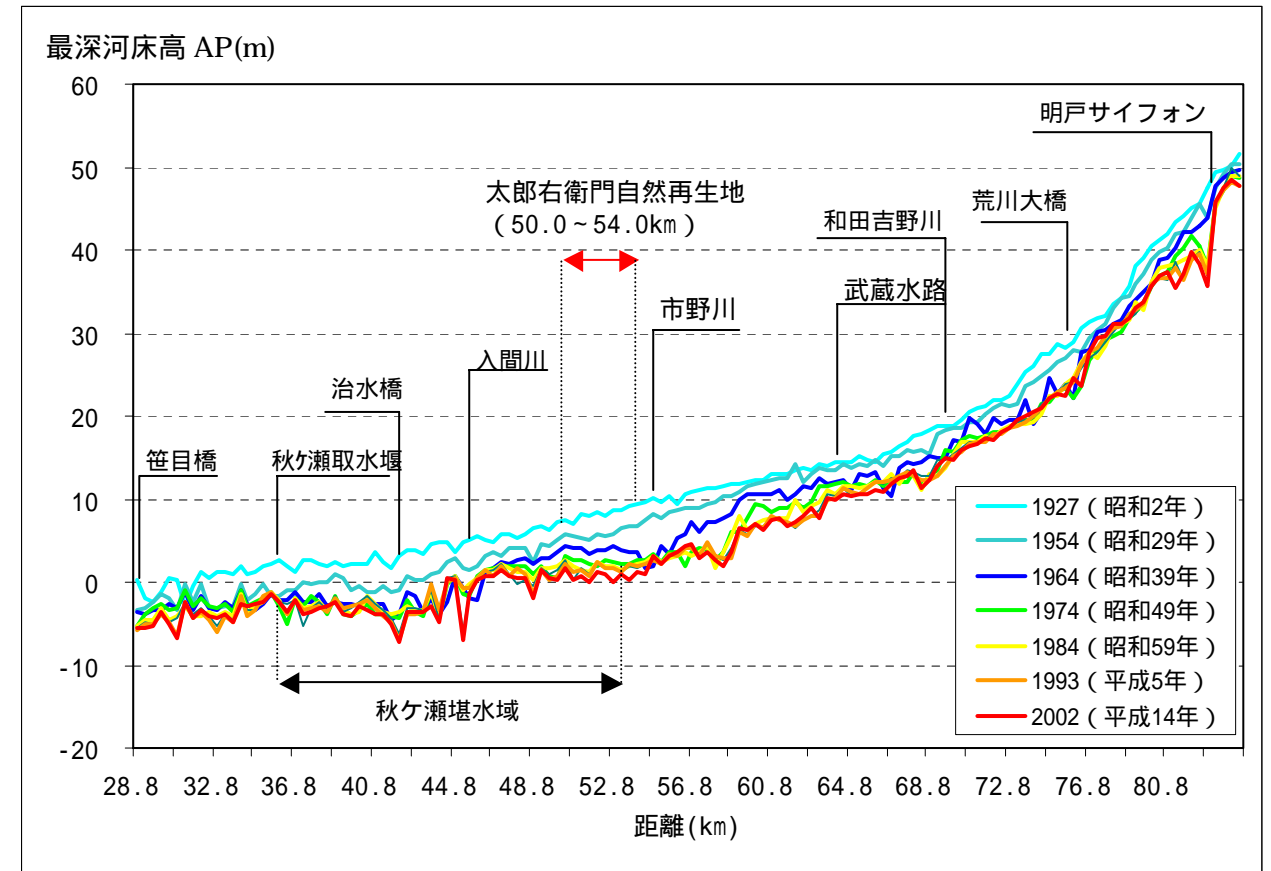


横堤により流れを緩やかにし遊水効果をもたせている

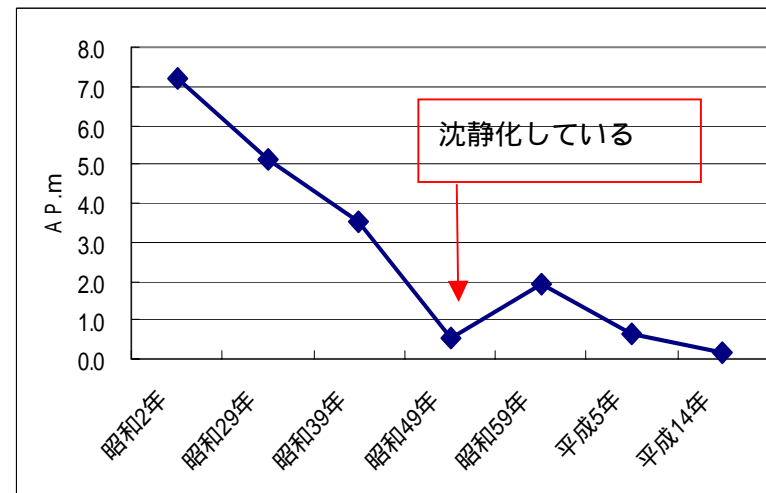


第二次改修計画図 (横堤の位置)

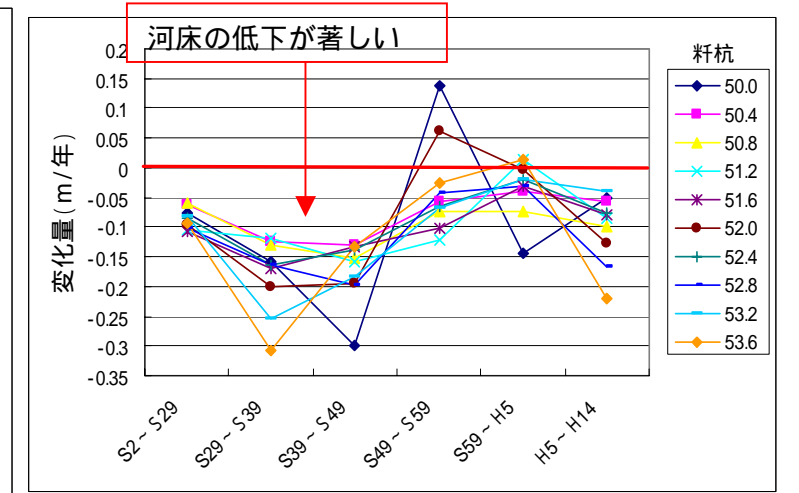
< 本川の河床の低下 >



最深河床高縦断面図 (荒川縦断面図等)



50 km 地点の最深河床高の変遷



太郎右衛門自然再生地の本川最深河床高変化量の変遷

30年代～50年まで、建設骨材としての砂利採取が最も盛んに行われ、その結果、河床の低下もこの時期が最も著しい。河床の低下は現在沈静化している。